

## 越後三山：越後駒ヶ岳

- ◆日程 2021年4月10日(土)～11日(日)  
 ◆メンバー L：HY、OT

雪がない…西面の水無川は想像以上の寡雪で、あっさりサブルートに転進（藪漕ぎは嫌なので）。シルバーラインを走り抜け、東面の北ノ又川を目指す。到着した銀山平は文字通りの銀世界！周辺道路が開通して初めて迎える週末で、しかも晴天予報…このタイミングを待ち構えていた関東ナンバーの車が何台も路駐している。

新年度「雪山ユニット」の企画山行第1弾として「日本を代表する豪雪地帯の雪山登山を経験する」と銘打ち、越後駒ヶ岳の尾根ルートを計画した（というか、以前から考えていた計画に寄せてみた）。会では越後好きと思われている私だが、実は越後がベストワンという訳でもない。個人的には「夏の甲子園」としての飯豊連峰、「春の甲子園」としての黒部・剣を筆頭に、かつて足繁く通った「ホームグラウンド」としての白山山系や虎毛山塊、そして会越国境や只見の山々（不遜を承知で言うと、白山山系東面と虎毛山塊南部の積雪期バリエーションルートについては、今でも第一人者だと自負している。というのも、かの地に積雪期バリエーションルートを求める山々は極めて少ない）、また、朝日連峰や奥利根、後立山連峰、戸隠も「甲子園」への切符を勝ち取るための重要かつ好きな山域だ。また、北海道は夏の大雪山系縦走を一度やっただけだが、利尻・日高・知床なども含めて行けば必ずハマるだろうという予感がする。越後はこういったお気に入りの一つといえる。越後初見参から四半世紀が経とうとしているが、狭義での越後三山に限定すると、この間での山行は15回以上20回未満というところか…名古屋時代と仙台時代は充実したホームグラウンドのおかげで、越後にはあまり行けていない。しかしながら広義での越後（つまり新潟県）と捉えた場合、状況は異なってくる。越後が抱える山域は多く、ざっと数えてみただけでも、頸城、上信越（上越）、奥利根、越後三山、川内下田、五頭、会越、飯豊、朝日、佐渡…分類によっては、海谷、毛猛、守門なども加わるか？まあ、とにかく多い。そして好きな山域を数多く含む。

今回はスタートで躓いたものの、終わってみれば「会心に近い」山行になった。「滝ハナ沢左岸尾根」というルート自体、技術的な困難度は高くないので「会心」は言い過ぎ、「会心に近い」ということにしておこう。個人的には最近ランニングをメインに活動していて、心肺機能と体力については「パーソナルベスト」ともいえる状態を維持しているが、今季初の山中泊であり、重荷への不安は正直あった。しかもコロナ対策で衣食住は全て個人装備＋登攀具（50mロープも！）なので、通常雪山1泊装備よりは確実に重い。蓋を開けると、絶好の天気と雪質に恵まれ、場面場面での的確な判断と行動により、極めて順調な山行となった。フィギュアスケート放映時の加点減点表示に例えると、黄緑緑黄緑緑緑緑…という感じか。下山後の温泉「白銀の湯」はこの週末を待っての営業開始。通常より遅いランチも懸命に探した結果、超ガッツリメニューで出迎えてくれた。50オーバーの2人が注文するメニューではなかったが、そこは山ヤとしての矜持も手伝い、キッチリ完食。

来年は一つお隣の「滝ハナ沢右岸尾根」（元々計画していたルート）に行ってみよう…中ノ岳東尾根も良さそうだ。長すぎるまえがき（副題：「春に輝く日本の雪稜 in Echigo」）はこれぐらいにしておこう。

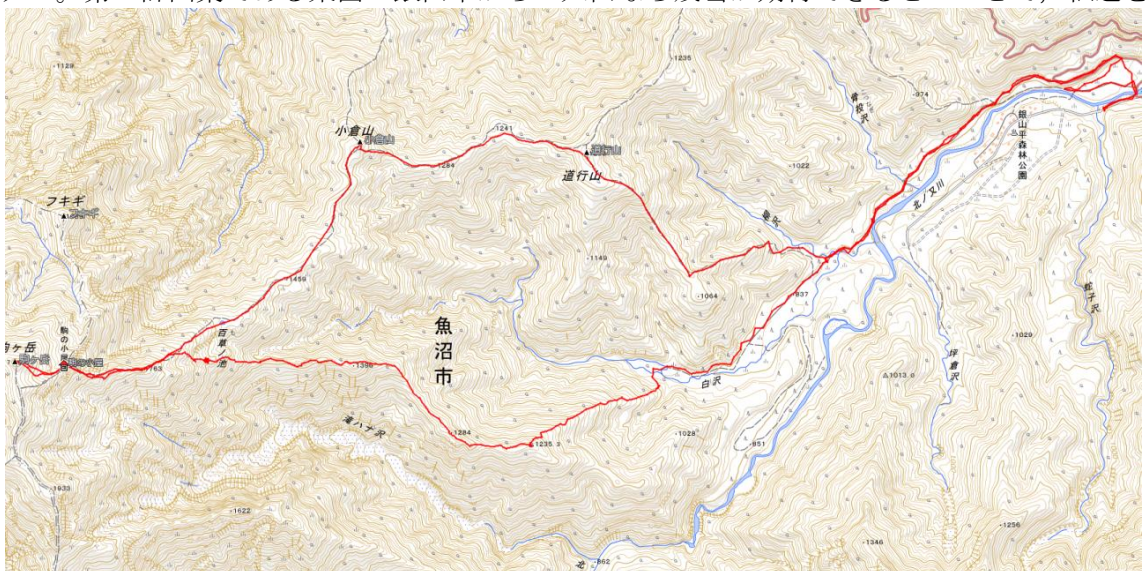
（記：HY）



### 滝ハナ沢左岸尾根中間部の登高

4月10日(土) 天候：晴

昨年末の雪トレ以来の雪山だ。その前は昨年1月、越後ネコブ山への登山口手前の林道で滑って左膝を打ち（結局膝蓋骨ひび割れ）、一人撤退した苦い思い出がある。今回は同じ越後での雪山VR再挑戦だ。南西面の登山開始点に着くと雪がない。これでは藪漕ぎで進めなくなるとリーダー。第二計画案である東面の银山平からの入山なら残雪が期待できるとのことで、転進を



即決。移動に一時間を要したが、白銀の世界で高度も 300m 以上高稼げたので帳消しに余りある。取付き地点からしばらくは急登が続く。途中でアイゼンを装着し、速度が上がる。稜線に乗ると雪庇が現れる。雪庇から適度に距離を置きながら歩くリーダーに続く。その後、適宜先頭も歩かせて貰う。強い風に曝される稜線上は藪が剥き出しで、アイゼンやピッケルが引っ掛かって中々進めないため、濃い藪は脇の斜面をトラバースする。滝ハナ沢側の斜面は太陽熱でシャーベット状になっており滑り易い。滝ハナ沢に落ちまいとする緊張で消耗した頃、陽当たりのない雪が締まっている場所に移る。行動終了予定の 16:30 に開けた場所に踊り出る。適度に藪があり、斜面も緩やかだ。しかもメインルートである小倉尾根の下なので、往来が無い。以上より幕営適地だとリーダーは判断、直ちに整地工事。テントを張り、新雪でお湯を沸かし各自夕食。外は無風で満天の星空。20:30 就寝。(記:OT)

CT: 银山平 10:42 - 林 道出合 11:57/12:17 - 滝ハナ沢左岸尾根取付き 12:45 - 1235m 地点 13:55/14:15 - 1410m 地点 15:53/16:05 - 1560m 地点 16:35 (テント泊)

#### 4月11日(日) 天候: 快晴

素晴らしい朝焼けだ。風は概ね風いでいる。早朝の雪は締まっており歩き易い。所々新雪トラップもある。快晴の中、白銀と蒼天のシンプルな景色が眩しい。前駒付近で3組ほど下山パーティーに会う。避難小屋か山頂泊の人らで、風は弱かったという。山頂はテント泊の一組だけ。360°の大展望を満喫出来た。

下山は小倉尾根を素直に進む。尾根は広く緩やかでまさにグレンデ向き。次々と山スキーヤーが登ってくる。陽に当たった斜面は既にシャーベット状だが、転んでも滑落リスクは小さい。小走りと尻セードで一気に下降。林道出合付近にある湧水で喉を潤す。最後は長い林道歩きを経て银山平の車に到着。温泉でゆっくり汗を流した。上がると14時近くで飲食店は概ね休憩時間。紆余曲折して入った洋食レストランは美味しいうえにボリューム。リーダーによれば、良い山行は、登山と温泉、食事の三つが揃わなければならない、今回は満足とのこと。自分は山行が良ければ十分と思うタチなので新鮮だ。キツかったが、天候を始めあらゆる事が良い方に転び、楽しく多くを学べた山行だった。HYさんの好リードに感謝。(記:OT)



CT: 1560m 地点 6:25 - 前駒 7:03/7:13 - 駒の小屋 7:55 - 越後駒ヶ岳 8:17/8:45 - 1450m 地点 9:35/10:05 - 小倉山 10:20 - 1060m 地点 11:10/11:25 - 湧水 11:50/11:55 - 银山平 12:35

